



### 3 おすすめの肥料

#### ・BBN552号

ほうさくクラブで元肥として紹介している肥料。N:P:K=15%:15%:12%で含まれている高度化成。少量で効果が出る。早く効く窒素と、流亡しにくくゆっくり効くリン酸が含まれており使いやすい。



#### ・ユウキオール8号

有機肥料が25%含まれている。N:P:K=8%:8%:8%。長野県の土に不足しがちなマグネシウムも入っている。速効性の肥料と、遅効性の有機肥料を混ぜてありバランスが良い。



#### ・追肥N30号

追肥用の肥料。N:P:K=18%:4%:8%。作物の生育中にサッと効くように、すべて速効性で窒素が多め。



#### ・炭酸苦土石灰

酸性の土の中和だけでなく、カルシウムとマグネシウムの補給をする。多少施しすぎてもアルカリ性になりにくいので安心。



#### ・BMマルチサポート

マンガン、ホウ素、ケイ酸、鉄、カルシウム、亜鉛を含んだマグネシウム肥料。微量元素不足の対策や生育の向上が期待できる。



#### ・サンライムプラス

カキ殻が原料のカルシウム肥料に、マグネシウム、ホウ素、マンガン、鉄、亜鉛、銅、モリブデンなどの微量元素が含まれている。酸性土壌の中和もできるので苦土石灰の代わりに入れられる。



### 4 土壌診断をお勧めします



人間の食事バランスが大事なのと同時に、肥料もバランスが大事です。肥料が土中に残りすぎてバランスが崩れると、植物が吸収しにくくなり欠乏症が発生しやすくなります。欠乏症で有名なのはトマトの尻腐れ(果実下部が黒く変色。カルシウム(石灰)不足)や大根の芯腐れ(すが入ったり、変色する。ホウ素不足)、網目状に葉の色が抜ける(マグネシウム(苦土)不足)などがあります。

火山灰土が多い長野県の土はリン酸が効かなくなるからと昔はたくさん入れていましたが、今では過剰となっている畑が多く、特に施さなくてもよいこともあります。土の酸性度が気になって石灰を多く入れていたら、じつはアルカリ性になっていたという話もよくあります。酸度が変わると肥料の効き方にも影響します。

ほうさくクラブでは作物の栽培を掲載する際は毎回施肥量の目安も紹介していますが、肥料の残っていない畑を想定した量です。畑によって肥料の残り方はさまざまなので、本当は肥料の量はすべての畑によって異なるはず。肥料がどれだけ残っているかは「土壌診断」をするとわかります。次の作付けの準備として、冬の間土の中身を確認してみたいかがでしょうか。土壌診断は890円(税込)から行うことができ、各グリーンファーム店、営農センターで受け付けています。お気軽にお声掛けください。

第199回  
今月は

# ほうさくClub!

## 肥料について

作物にとっての「ごはん」ともいえる肥料。グリーンファーム店にはたくさんの肥料が並んでいますが、どこを見て選べばいいのでしょうか。肥料について詳しくなりましょう。



### 1 植物に必要な養分

たくさん必要な養分を「多量要素」といい、ほんのちょっとだけ必要な養分は「微量元素」といいます。人間が三大栄養素(タンパク質、脂質、炭水化物)のほかにミネラルやビタミン、食物繊維などが必要のように、植物も三要素(窒素、リン酸、カリ)以外にも必要な養分があります。



### 2 要素の主な作用



	要素	主な作用など
多量要素	窒素 N	タンパク質を構成。葉緑素、酵素、ホルモン、細胞分裂など植物体中で重要な働きをする物質の構成。生育促進。養分吸収。同化作用。
	リン P	光合成。呼吸。糖代謝。エネルギー伝達。核酸、酵素を構成。成長、分げつ、根の伸長、開花、結実の促進。
	カリウム K	光合成。炭水化物の蓄積。タンパク質合成。体内の水分調節。病害虫抵抗性の増大。開花、結実の促進。
	カルシウム Ca	細胞膜の生成と強化。有害物質の体内中和。根の生育。
	マグネシウム Mg	葉緑素の構成。リン酸の体内移動に関与。酵素の構成、活性化。
	硫黄 S	タンパク質、アミノ酸、ビタミンなどの生成。体内の酸化、還元、成長の調整。日本の土壌に豊富に含まれている。
微量元素	鉄 Fe	葉緑素の生成。体内の酸化、還元に関与。
	マンガン Mn	葉緑素の生成。ビタミンCの合成に関与。酸化還元酵素の活性化。
	ホウ素 B	水分、炭水化物、窒素代謝に関与。カルシウムの吸収、転流に関与。細胞膜、維管束の維持に関与。
	亜鉛 Zn	酵素の構成、活性化。ホルモン生成。
	モリブデン Mo	酸化還元酵素の構成。窒素利用に関与。ビタミンCの生成に関与。
	銅 Cu	酸化還元酵素の構成。葉緑素の形成に関与。
	塩素 Cl	光合成に関与。植物体内構成成分の合成に関与。
	ニッケル Ni	酵素の構成、活性化。